

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

**サントリー食品インターナショナル株式会社**（証券コード:2587）

## 【据置】

長期発行体格付	AA-
格付の見通し	安定的
債券格付	AA-
国内CP格付	J-1+

## ■格付事由

- サントリーグループ（グループ）の中核事業会社で飲料・食品事業を担う。国内飲料業界では第2位で、「サントリー天然水」や「BOSS」、「伊右衛門」など、消費者認知度の高い定番ブランドを多数有する。海外でもアジア、オセアニア、欧州、米州など幅広い地域で事業を展開する。上場会社であるためグループからは一定の独立性があるが、事業面や成長戦略における一体性を踏まえ、JCRではグループを当社を含む一体で評価し、当社の格付にもグループ全体の信用力を反映させている。
- コロナ禍や大手メーカー間の競合に加え、原材料価格や物流費の高騰などもあって、事業環境は厳しい。ただ、コアブランドの強化や全世界横断でのノウハウ共有などで、販売力の強化が図られている。継続的なコスト削減の取り組みのほか、国内自販機事業などの構造改革も着実に進展している。引き続き、主要地域における高いプレゼンスを維持しつつ、財務基盤の強化を進めていけると考えられる。格付は据え置き、見通しは安定的とするが、コスト上昇圧力が強まる中でも利益の下振れを抑制し、キャッシュフロー創出力を持続的に高めていく見込みが得られれば、よりポジティブな評価が可能となろう。
- 21/12期営業利益は1,186億円（前期比23.3%増）と、コロナ前を上回る水準に回復した。国内サプライチェーンの効率化やアジアパシフィックの成長、欧州の復調などがプラス要因となった。22/12期会社計画では営業利益1,255億円を予想する。前期対比で200億円程度の原材料価格高騰影響が織り込まれているが、地政学リスクの高まりなどで、期初想定以上に負担が増す可能性がある。コアブランドへの集中や自販機事業のビジネスモデル革新、国内外の価格改定などで、悪影響を吸収していけるか注目していく。
- 財務構成は良好である。有利子負債は15/12期末に4,000億円台となった後、順調に削減が進展。21/12期末では半減以下となっている。一方、親会社の所有者に帰属する持分（日本基準の場合は自己資本）は、株式公開後（13/12期）の5,000億円台から、21/12期末では8,000億円台に拡充されている。当面、アジアを中心に成長地域での投資増加が予想されるが、資金面での懸念はない。中長期的にはある程度大型のM&Aも想定されるが、現状の投資枠（2,000～3,000億円）に対しては十分な財務の柔軟性がある。

（担当）窪田 幹也・藤田 剛志

## ■格付対象

発行体：サントリー食品インターナショナル株式会社

## 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA-	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第2回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	150億円	2014年6月26日	2024年6月26日	0.700%	AA-
第4回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	150億円	2018年7月26日	2023年7月26日	0.070%	AA-
第5回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	200億円	2021年7月8日	2024年7月8日	0.001%	AA-

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	2,500 億円	J-1+

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2022年7月8日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信  
主任格付アナリスト：窪田 幹也
- 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「食品」（2021年6月1日）として掲載している。
- 格付関係者：  
（発行体・債務者等） サントリー食品インターナショナル株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル